

## 第5回宇都宮市上下水道事業懇話会 議事録

### ■ 日 時

平成30年11月13日（火） 午後2時～

### ■ 会 場

宇都宮市上下水道局 5階大会議室

### ■ 出席者

- ・ 委 員：太田正委員，岡田榮委員，郷間いし委員，  
坂本英典委員，櫻井誠委員，三宅徹治委員，  
宮嶋雅子委員，室恵子委員，山岡暁委員（50音順）
  
- ・ 局 側：上下水道事業管理者，経営担当次長，技術担当次長，経営企画課長，  
経営担当主幹，企業総務課長，サービスセンター所長，  
工事受付センター所長，水道管理課長，水道建設課長，  
下水道管理課長，下水道建設課長，生活排水課長，  
技術監理室長，事務局職員

### ■ 傍聴者数

2名（いずれも記者）

### ■ 会議経過

#### 1 開 会

#### 2 懇 話

- (1) 上下水道局における災害対策と周知について  
事務局より，資料に基づき説明

H 委 員： 上下水道局は給水車を2台しか所有しておらず，宇都宮市の人口に対し  
給水車の数が少ないのではないかと不安がある。

事 務 局： 災害発生時は災害の規模に応じ，協定に基づき他都市から給水の支援を  
受けることになっており，給水車は不足しないと考えている。また，大規  
模な災害を想定した実践的な訓練も行っている。

I 委員： 施設や管路について、更新する際には耐震化も行うのか。優先順位はどのように定めているのか。

事務局： 管路を更新する際には耐震化も兼ねて実施しており、施設についても基幹施設から耐震化を順次行っている。管路の耐震化の優先順位は、口径が大きい基幹管路や緊急輸送道路下の埋設管，病院や給水拠点等に隣接する管路を優先的に行っている。

I 委員： 長期的な更新計画はあるのか。

事務局： アセットマネジメントやリスク値等を踏まえた計画を策定しながら対応していく。

B 委員： 高台での断水対策について説明いただきたい。

事務局： 宇都宮市では、水は北から南に流れる地形で、基本的に高低差によって水を送ることができる。戸祭配水場も高架水槽を高台に置いているので、断水の可能性は低い。有事の際には給水車が駆けつけるようになっている。

E 委員： 市民への周知について、情報がどれくらい市民に浸透しているかの効果検証をどのようにしているのか。

事務局： 「宮の水サポーター」交流会等を通じて、ご意見を直接伺っている。今年度から新たにミヤラジに出演するなど、地元メディアで「防災」をテーマに放送しており、一定の効果があると考えている。

危機管理や水のトラブルについては、広報紙にも掲載している。より効果的な広報の手法についても検討している。

F 委員： 市民の意識に関するデータを見たことがあるが、大きな調査の際には広報活動の評価ができるような質問項目を追加するのも良いと思う。

C 委員： 広報に関する調査は、質問されて初めて広報活動について知ることも多い。具体的な質問項目で、多くの情報を取り入れる機会としてほしい。

D 委員： 情報弱者を考慮した広報も重要だと思う。防災をテーマにミヤラジに出演することも、ミヤラジ自体、市民がどれだけ視聴しているか調査する等、

様々な層に広報できるよう、更に緻密な計画が必要であると考える。

事務局： 将来的にはミヤラジへの出演だけでなく、より多くのラジオ・テレビ組に出演してPRできればと考えている。地域の防災会にも参加し、市民に直接情報提供するなど、電子の面だけでなく口コミ等で広めていくことも併せて検討している。お届けセミナーの活動でも、給水バッグを提供し、小学生が家に持ち帰った際に防災の話をするきっかけとなるような活動を続けていきたい。

座長： ご紹介いただいた給水バッグについて、説明いただきたい。

事務局： 防災について考えるきっかけとなるよう今年度の局の啓発グッズとして作成した。今後も多くの場での配布を検討している。

B委員： 市の広報紙にも上下水道事業について掲載するべきではないかと考える。

事務局： 市の広報紙だと紙面に限りがあるため、局広報紙に掲載している。更に多くの方に広報紙を読んでいただけるよう、工夫していきたい。

## (2) 公共下水道（雨水）の整備について

事務局より、資料に基づき説明

I委員： 雨水幹線の効果について、説明いただきたい。

事務局： 河川に雨水を流すために、雨水幹線を通して流す。雨水幹線には暫定的な雨水貯留管としての役割もある。

F委員： 河川整備について、東京都は暫定ではなく、積極的に雨水を貯留する巨大な地下空間を作った。宇都宮市においても積極的に貯留空間を作るべきなのか、見極めが重要であると考える。

事務局： 雨水幹線は50年間は耐用可能であるとされており、長期間使用することができる。暫定というのは、雨水を最終的には河川に流すため、浸水被害が市民生活に影響がない程度に暫定的に貯留するという意味。

H 委員： どれくらいの降水量を想定して設計しているのか。

事務局： 5年に1度とされる62.2mmの大雨が降った際にも浸水することなく河川に排水できるように設計している。

E 委員： 雨水の流れていく河川については、どの河川を想定しているのか。

事務局： 奈坪川や鶴田川等を想定している。

E 委員： 台風の際に河川が氾濫しているイメージがある。雨水を流してしまうとすぐ河川は溢れてしまいそうだが、懸念はないのか。

事務局： 整備計画において、河川にどれだけ排水するのかを決定した上で設計しているため、将来的にも溢水の心配はない。

B 委員： 雨水幹線を整備するにあたっては、排水される河川のハード面の整備も必要だと思う。

座長： 河川自体に十分な排水機能がないことが大きな問題と考えるが、所管課との連携はどのようになっているのか。

事務局： 総合的な治水について、河川・道路・下水の関係部局で協議をしている。

H 委員： 雨水貯留タンクや浸透ますの普及率を教えてください。

事務局： 平成14年度から開始以来、タンクと浸透ますを合わせて現在1,896基設置している。

座長： 年々増加しているのか。

事務局： 設置件数は平成14年度をピークに減少傾向にある。今年、長野市が実施したアンケート結果によると、他中核市も設置件数は減少傾向にある。

H 委員： 補助金があるため、設置に積極的な人は早いうちに設置するが、その後の設置数増加に向けては工夫をしないと裾野は広がらないだろう。

F 委員： 懇話会に参加するようになってから、雨水貯留タンクを設置しようと調べたところ、約6万円するものに約4万円の補助金がつくので、約2万円で設置できることが分かった。知人の工務店に相談したところ、「2万円分の水道料金を回収するのは大変だ」と言われたが、その後自作でつけたところ、雨水の多さを確認できたので設置して良かったと思う。手作りでも雨水貯留タンクを設置できるという情報を提供するのにも良いのではないか。

D 委員： 大雨の際に冠水しやすい道路の情報等は、提供されているのか。

事務局： 河川のハザードマップに、浸水被害ポイントを示し宇都宮市のホームページに掲載している。

F 委員： 水道水へのマイクロプラスチック混入について伺いたい。世界81%の国の水道水にマイクロプラスチックが混入しているとの報告がある中、日本では調査をしていないということだが、今後どのように対応する予定であるか伺いたい。

事務局： 海洋汚染により問題となっているところであるが、厚生労働省はマイクロプラスチックにどのような影響があるか調査しきれていないため、WHO等から情報を得ている段階である。厚生労働省の研究機関では、現在マイクロプラスチックが具体的に人体にどのような影響を与えるのかを研究しており、現段階では水の濁度を適正に管理していれば問題ないとされている。水道水を濁度2度以下で配水するよう定められているが、宇都宮市ではより厳しい、0.1度以下で配水するよう定めており、平均でも0.00～0.03度の濁度で水道水を配水している。現時点で宇都宮市ではマイクロプラスチックの影響はないと考えているが、今後も国等の動向を注視し対応していきたい。

### 3 その他

第6回懇話会開催日程 平成31年2月上旬～中旬頃開催

### 4 閉会